

学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立八尾支援学校
校長名	古川 綾子
准校長名	山寄 夏生

開催日時	令和5年7月13日(水) 10:00 ~ 12:00
開催場所	本校 図書室
出席者(委員)数	6名
出席者(学校)数	11名
傍聴者	2名
資料	学校運営協議会実施要項、令和5年度学校経営計画、R4年度卒業生進路状況調査票、1学期授業アンケート結果、令和6年度使用教科用図書(選定・採択)一覧表
備考	

議題等(次第順)

- 開式の辞
- 校長挨拶
- 学校運営協議会実施要項【説明】
- 報告
 - ・ 令和5年度 学校経営計画
 - ・ 各学部の状況
 - ・ 令和4年度 卒業生の進路状況
 - ・ 令和6年度使用教科用図書の選定について
- 1学期授業アンケート結果について
- 質疑応答
- その他
- 准校長挨拶
- 閉式の辞

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- 校長挨拶
 - ・ 働き方改革を進め、教員が心身ともに健やかに働くことができる環境を作ることが、よい教員を集めることに繋がり、質の高い授業や学習指導を提供できる。
 - ・ 学校施設、設備の老朽化と狭隘化について、改善に向けて努力したい。
- 報告
 - 【R5年度学校経営計画】(校長・准校長)
 - ・ 災害や危機管理に対する学校としての対応力の見直しを進める。防災マニュアルを見直し、学校BCPの整備を進めることを目的に防災プロジェクトチームを立ち上げる。
 - ・ 業務の効率化を図るため、学校電話の時間外対応の廃止や職員連絡会のシステム化により、魅力ある職場をめざす。
 - ・ 居住地校交流等の取り組みを進め、今の時代に合った開かれた学校をめざす。
 - ・ カテゴリー別の学校ブログ作成などを行っている。今後も積極的な情報発信に努める。
 - ・ 指標が80パーセントを超えている項目は削除し、評価指標90パーセント以上の項目は「維持する」とした。

【各学部の状況】

- ・ 入学する児童が30人を超え、特別教室をHR教室として転用するなどの対応に迫られている。結果として特別教室を他学部のエリアに配置することとなったが、学部のエリアからは距離があり、活用については難しさが生まれている。(小学部)
- ・ コロナの制限も緩和され、行事などさまざまな活動の内容に活気が戻ってきている。(中学部)
- ・ 通学区域割の変更に伴い、入学者が激減している。小中学部が増加する一方、高等部は減少の一途をたどり、3学部が共存する学校としては児童生徒数のバランスが歪なものになっている。また、高等部の学級数減小に伴い、教員数も減少するが、年間を通して必要な業務量はそれほど変わらず困難さを感じている。(高等部)

【令和4年度卒業生の進路状況】

- ・本校中学部から高等部にそのまま進学する割合は約20%程度でとても少ない。原因としては校区割や他の学校を受験する生徒が増えて進路先が多岐になっている。
- ・高等部卒業後の進路では、就職をめざす生徒が増えてきている。
- ・昨年からは障害者就業・生活支援センターとの就労定着の取り組みを3年かけて行うようにしている。
- ・昨年からは保護者が視聴できるように進路動画を配信している。小中学部の保護者も視聴できるようにして進路に関する基本的なことを早期から知ってもらうようにしている。

【1学期授業アンケート結果について】

- ・全学部通じて概ね良好な評価を保護者よりいただいているが、記述で様々な意見もあったので今後の授業改善に努めていく。
- ・信頼性の高いデータを収集するために回答率を高く保つことができるように、アンケートの取り方の検討や工夫を行っていく。

●質疑応答

【意見感想】

- ・授業アンケートは、その場で記入して提出できるからこそ高い回答率になっていると思う。Googleフォームなどを活用すると回答率は下がると思う。

【質問および回答】

Q：防災アドバイザーとはどこから派遣された人なのか。

A：大阪府の派遣事業に依頼している。今年度で3年目になり、毎年防災訓練のアドバイスなどをいただいている。今年度は防災マニュアルの見直しのアドバイスをいただく予定である。

Q：高等部卒業後に就職した生徒のフォローなどはしているのか。

A：企業と連携を密にとりながら訪問なども行っている。定着については、我々教員がどれだけ入ってフォローをするか以上に現場のサポートがどれだけ得られるかにかかっている。

Q：コロナの制限が緩和されて、子どもたちの様子はどうか。

A：久しぶりにプール学習に参加する児童生徒も多く、プールの様子を見たときに楽しそうにいきいきしていた。また調理実習も実施可能になったので、コロナ禍でできなかった取り組みを積極的に行っていきたい。

Q：チャットGPTのような活用は考えているか。

A：現段階では教育庁からの指示はないが、子どもたちの生活の中で重要になってくることがあれば学校現場でも活用しなければと考えている。時代に即した教育を行っていきたい。

Q：高等部の人数が減ることにより、コミュニケーション面や人間関係に影響が出るのではないか。

A：例えば職業コースでは学年を超えて一緒に授業をするなどの工夫をしている。

Q：就労移行支援が0名となっているが、毎年同じような傾向か。

A：最近の傾向として、就労移行支援を始めるより自立訓練から始めて4年間かけて就職をめざしていくという方が増えているように感じる。

●准校長挨拶

- ・児童生徒の安心・安全や教育活動の充実を十分に行っていきたい。同時に教職員の働き方や職場環境の改善にも取り組んでいきたい。
- ・府と連携しながら引き続き施設整備の改善に向けた取り組みを進めていく。
- ・地域連携も含めた防災の取り組みを考えていく。

次回の会議日程

日程	令和5年 12月
会場	本校 図書室